

小鏡裏を添うんと。と喜び長光寺の城を圍む。進むと織田氏
群の中より黙々たる者あり。追えなく。當株中多井
の衆々。蓑音より。算少く。城中の水を堰密。今も定め。取
あつて。小備遠連筒と截落さば。株中急地渴死をぐぐ。と云
ちを新たまつ。圓くも。寧密。そと。主郷民を導き指者とし。
城は背踏小攀廻。樹間。岩間。穿つて。大樹の算を擱す
しづ。をや是こそ。城中の余は。鶴断截。も。励めくと。自他
とも。小斧械。とうも。據く。難躬く。撲と。砍盡く。頃。頃。六月
の初。暑氣炎々と烈。城中定めて。水ふ渴く。難危々
らんと。おりひの外。もしも窮き。無色かく。日小雪。而根抗
え。これハ紫田が。篠林の。水。算を。うち。水ゆく。始終危き。と
あらん。と。井と。四箇所。小穿せ。算の水を斬。とも。さの
固窮せ。うり。移とも。知らぞ。六角方へ定めて。勝城と。小
あ。攻隊の。兵士を。勞。都て。自軍の。こめ。らじ。と。軍を止
く。寝待。然ども。珠中弱。能の。つ。へ。ぬ。と。義良。神助。と
使。已して。珠中。さし遣。勝家。小對面。数日の。篠城。防
禦の術。小。ら。箭の。位。頭。を。蓋の。被。卒を。失。もん。と。城を
開く。退去。ある。御も。非。通り。も。みじ。と。入道の。口。火。演。され。徳家
使者。小。着。て。回。ら。斯。穿。珠を。つ。ま。い。も。勝家。一個の。馬。の。を。う。と
老黨。候。までも。一致。と。城を。墓。所。と。お。ひ。定め。防禦。な。く。ほ
車。み。れ。ば。更。候。の。北。輩。も。よ。く。听。せ。此。よ。う。邊。名。ま。と。ご。と。呼。く
神助。相。意。治。列。群。と。轍。く。こ。も。拳。を。兜。從。小。洗。水。と。乞。れ。

豊臣記三編卷之七

固窮せ。うり。移とも。知らぞ。六角方へ定めて。勝城と。小
あ。攻隊の。兵士を。勞。都て。自軍の。こめ。らじ。と。軍を止
く。寝待。然ども。珠中弱。能の。つ。へ。ぬ。と。義良。神助。と
使。已して。珠中。さし遣。勝家。小對面。数日の。篠城。防
禦の術。小。ら。箭の。位。頭。を。蓋の。被。卒を。失。もん。と。城を
開く。退去。ある。御も。非。通り。も。みじ。と。入道の。口。火。演。され。徳家
使者。小。着。て。回。ら。斯。穿。珠を。つ。ま。い。も。勝家。一個の。馬。の。を。う。と
老黨。候。までも。一致。と。城を。墓。所。と。お。ひ。定め。防禦。な。く。ほ
車。み。れ。ば。更。候。の。北。輩。も。よ。く。听。せ。此。よ。う。邊。名。ま。と。ご。と。呼。く
神助。相。意。治。列。群。と。轍。く。こ。も。拳。を。兜。從。小。洗。水。と。乞。れ。